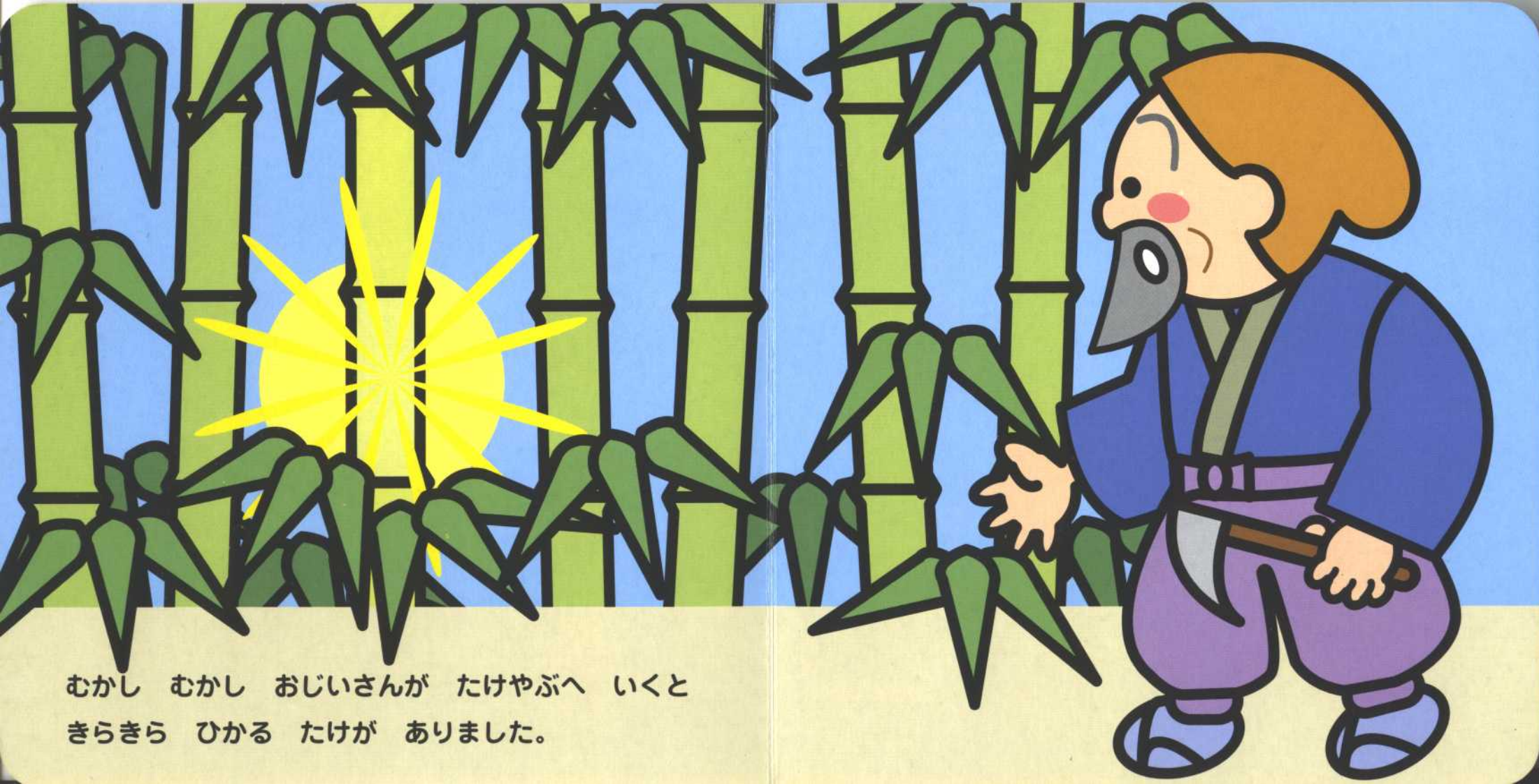


おはなしシリーズ

4

# かぐやひめ

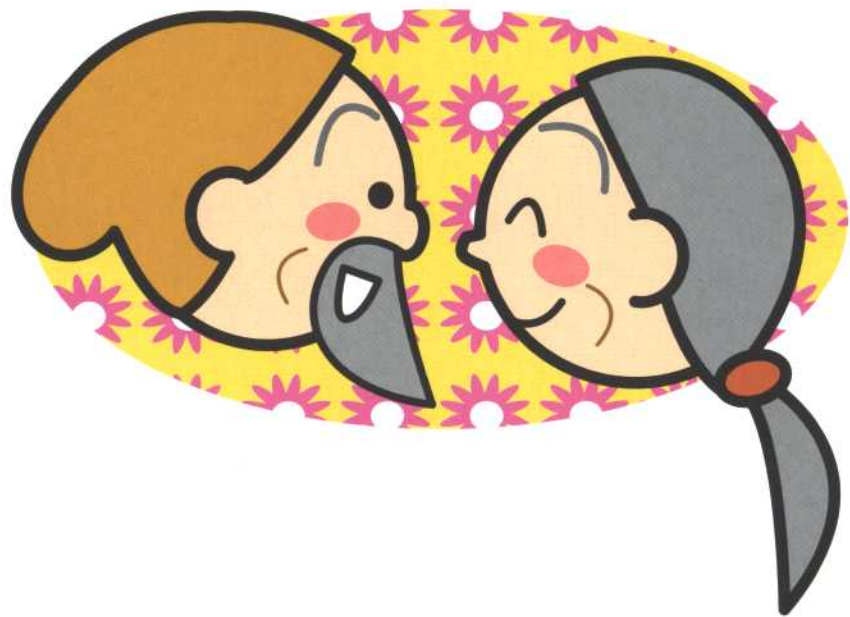




むかし むかし おじいさんが たけやぶへ いくと  
きらきら ひかる たけが ありました。



おじいさんが たけを きると なかには  
かわいらしい おんなのこが ねむっていました。  
「かぐやひめと なづけて たいせつに そだてましょう。」  
おばあさんも おおよろこびです。  
かぐやひめが きてからは たけを きるたびに  
こぼんが でてきて いえは おかねもちに なりました。



やがて かぐやひめは うつくしい ひめに なりました。  
あるひ ひょうばんを きいた みかどが  
かぐやひめに あいにきて いいました。  
「どうか わたしと けっこんしてください。」  
おじいさんと おばあさんは おおよろこびです。



ところが かぐやひめは かなしそうに いいました。  
「わたしは つきの くにで うまれました。  
おじいさん おばあさんと はなれるのは  
とても つらいけれど つぎの まんげつの よるに  
つきから むかえが くるのです。」

つぎの まんげつの よるに なりました。  
「うつくしい ひめを つきに かえしてはならぬ。」  
みかどの けらいたちは よろいを きて かぐやひめの  
へやのまえて つきからの むかえを まっています。





そのとき きゆうに そらが かがやきはじめ  
いちだいの くるまが おりてきました。  
まぶしすぎて けらいたちは  
めを あけることが できません。



「おじいさん おばあさん さようなら。」  
かぐやひめは くるまに のり 行ってしまいました。  
おじいさんと おばあさんは かなしみましたが  
どうすることも できませんでした。